

## 「社会知性」の開発めざし3つの施策まとまる

本学は「専修大学21世紀ビジョン」として『「社会知性」(Socio-telligence)の開発』をあげているが、この理念をさらに推進するため、基本政策検討会議(会長=出牛正芳学長、副会長=松浦洋治専務理事、座長=倉地克次常務理事、岡田和秀大学院経営学研究科長)では4月10日に次の三つの課題提案を行った。

### 【1】社会知性開発の基礎となる能力の育成について

専門的知識・技術を習得させるとともに「コミュニケーション能力」「情報処理能力」「問題解決能力」の育成を目指すものとする。

このうち、コミュニケーション能力と問題解決能力の育成については、双方向性・多方向性を有する授業の実施、実践的活動の重視などの観点から学部教育の改善、改革をはかる。具体的には、インターンシップの拡充、少人数教育の重視、GPA(グレード・ポイント・アベレージ=米において一般的に行なわれている成績評価方法の一種)の導入、授業評価の活用、セメスター制の拡充などを推進する。

そのほか英語によるコミュニケーション能力、情報処理能力の向上にもつとめる。

### 【2】インターネット活用授業等について

社会の急速な情報化に対応し、大学教育システムの改善をはかる。

キャンパス・オンデマンド・システム(遠隔授業)の構築、多様な情報通信技術を高度に利用した授業の実施、マルチメディア施設(LL教室)の活用、無線LANの整備などを推進する。

### 【3】専門職業人養成(社会人向け)大学院について

学術研究の進展や社会経済の高度化・複雑化、グローバル化などに対応して大学教育における専門的職業人養成の充実をはかる。

具体的には、神田キャンパスに専門的職業・実務能力育成を目的とした各研究科の集積、法科大学院(ロースクール)の開設、生田地域の交通至便な場所でのサテライトキャンパスの開設などを推進する。

今後はこれらの提案を、具体的に実践に向け、整備することが本学の急務と思われる。

[5月15日/ニュース専修1面]